



## 大地震発生、震度6強

2012年12月2日午前8時―

防災行政無線から鳴り響く地震発生を知らせるサイレン。

「ただいま町内全域に対して、地震に関する避難勧告を発令しました。さきほど発生した激しい地震により、町内では家屋の倒壊や火災の延焼など、危険な状態になっています。速やかに指定の避難場所まで避難して

## PICK UP 鬼北町防災訓練

ください。」

全町民に避難を促す訓練放送が流れ、この日約4,300人が近くの避難場所へと避難しました。

震度6強の大地震を想定して行われた今回の訓練。電気や水道などのライフラインの寸断、崖崩れによる孤立地区の発生など、実際に起こりうる事態を想定し、それに対応するための策を講じる災害対策本部運営訓練や避難所開設訓練など、



実践を交えての訓練となりました。

また、訓練終了後は各自主防災組織で計画した、消火栓や水消火器を使った初期消火訓練が実施されたほか、広見体育センターなど町内3箇所、鬼北町消防団女性消防隊による応急手当法講習会も開催。傷病者の搬送法、三角巾や身近にあるものを使った手当法など、実践を交えて教授しました。例えば、▼サララツ

プは包帯代わりに▼傘や玄関ぼうきは骨折箇所に使うなど、さまざまな活用法や女性ならではのアドバイスに、参加した人たちは「身近なものでいざというときに使えるものがある」と知って勉強になった」と、すぐにでも実践できる内容に満足げな表情を浮かべていました。

3年に一度行われる大規模な防災訓練で浮かび上

がった問題点の数々。まだまだ災害に対する備えは万全ではないと言えます。今回の訓練を水野和昭鬼北町消防団長は、「災害対策本部の人手不足は課題の一つ。各地域、自主防災組織でも、問題に対応できる体制づくりや話し合いの場を持つことが必要」と話し、改めて災害に対応する難しさ、繰り返し訓練を実施していくことの必要性を痛感していました。

必ず発生すると言われる南海地震。「いつか」ではなく、「今」起こるかもしれない、そんな風に意識を変えてみてください。自然と災害に対する備えを意識するようになるはずです。

「自分の命は自分で守る」そんな覚悟を持ってください。大げさなことではありません。「就寝前、枕元に靴と懐中電灯を置く」「保存食を買う」など、今からでも始められることもたくさんあります。

自分を守るため、そしてみんなと協力して地域を守るため、今一度災害に対する意識を見直してみたいと思います。

## 自分を守るために、地域を守るために

～「自助・共助・公助」の三位一体で災害に立ち向かう～